

## ノアの箱舟

創世記 6章 17～22節

ヘブライ 11章 7節

私たちの海老名教会の教会学校の子供たちがノアの箱舟を作っています。皆さん、楽しみにしてください。また、皆さんにも参加できるプログラムを考えています。なぜならば、ノアの箱舟を共に作ることによって、ノアの箱舟を通して今を生きる私たちに示された神様の御声を共に聴く機会にしたいと思うからです。また、海老名教会が今の時代において、ノアの箱舟のように、救われるところ、避けどころとなることを願っています。

神様がこの世のはじめに天と地のすべてをお造りになりました。そして、わたしたち人間を造ってくださいました。神様はご自身が造ったすべてを見て極めて良しとされました。しかし、創世記 6章 5節からを見ると、このような話が出ています。「(創世記 6:5, 6) 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。」

また 11節には「この地は神の前に墮落し、不法に満ちていた」と書かれています。ここで不法は暴力とも訳すことができます。墮落と暴力の世界、神様が嘆くほど罪にまみれている世界になっています。

6章 1節からをみると、その墮落の原因のような記述がありますが、神の子らが人の娘たちの美しいのを見ておのおの妻を選び、そこからネフィリム、つまり英雄たちが生まれた、と書かれています。

ネフィリムは「(天から)転落した、落ちた」という意味で、並外れの力を持っている者、英雄です。神の子ら、人間の娘という表現は、聖なるものと肉なるものの区別がなくなる、神様が造った世界の秩序が破壊されたことを意味します。聖なるものと人間的な領域の区別がなくなり、美しいものに惑わされ、力あるものが支配する暴力の世界になっているのです。つまり、性的にも墮落し、聖なるものに対する恐れがなくなり、力による支配、暴力の世界になっているのです。まさに、変わっていない今の世界でもあるのです。

神様がそれをご覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められました。これは神様の悲嘆、苦悩を意味します。なぜならば、私たち人間を愛しておられたからです。悪が増し、常に悪いことばかり思い計っているから、そのまま置いとくことが出来ないからです。聖なる方、正しい方である神様はその悪と罪を見逃すことはできない、しかし、人間を愛するゆえに痛み、苦しむ神のお姿です。

神様は決断なさいます。「私は人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。」

これが洪水の物語の始まりです。洪水によって世のすべてのものを滅ぼされた、死なせた、それは凄まじい神様の裁きのようなのですが、それは人間にとって新しい始まりであり、またその裁きさえも、神様の愛であることが分かります。なぜならば、神様はノアという

一人の人物を通して、人間に対する関心と愛を諦めておられなかったからです。私たちの姿がどうであれ、私たちに対する愛を諦めない神様、いかに大きな恵みでありましょう。

その墮落した世界の中で、ノアは神様に従う無垢な人でした。聖書はノアについてこのように言っています。「ノアは神と共に歩んだ」。では、ノアは正しい人、善い、完全な人間であったからです神様を選んだのでしょうか。後から出てくるノアの姿をみると、彼も欠けが多い人間のように思われます。神と共に歩んだ、それは神様に従う、従順することを意味します。つまり、神様の恵みを知り、その恵みに導かれた者でありました。神様を愛し、神様に子供のように従うノアを神様は見ておられたのです。

神様はそのようなノアにご自身の計画を知らせ、箱舟を作るよう命じます。サイズや形まで教えながら具体的に指示します。聖書はノアが、神が命じられた通りにしたことを何度も語っています。(6:28、7:5、7:9)

ノアは長い年月をかけて箱舟を作ることに励みました。信仰の人ノアを通して彼は勿論、ノアの家族と生き物は生き残ることができました。

ノアは神様のお声を聴くことができる人でした。神様のうちに留まり、その御言葉に耳を傾く人でした。神様は聖書を通して、祈りの中で、人々を通して、環境を通して、様々な形で語っておられます。ノアはこの世の騒音、雑音がいっぱいなところでも、神様の御声を聴く事ができる人でした。

ノアは、それがいかに小さく、面倒なことであっても従順する人でした。ノアは彼と彼の家族、そして、すべての生き物一つがい、他の箇所には清い動物と鳥は七つがいと書かれています。そのすべてが入れる巨大な箱舟を作るよう命じられたのです。舟は少しでも空きがあり、ひびが入ってしまうと水が入り、使えものにならないのです。正確さと丈夫さが問題になります。水の中で1年間を過ごすことができたノアの箱舟でした。彼は木を切り、それを合わせ、釘をさしながら神様に祈りをささげていたと思われ。彼はひたすら日常の中で、毎日反復される日々の中で、神様の指示を聴き、その通りに行ったのです。雨が降っても、太陽の強い日差しの中でも休まず箱舟を作り続けました。人々の目からは異常な行動のように見えたのにちがいません。巨大な舟を作り続けるノアは多分笑いものにされていたのでしょうか。この世の楽しみも、快楽も気にせず、大きな舟をひたすら作っているノアの姿が人々にどのように見えたかは想像できるものです。しかし、ノアは揺れることなく、命じられた通りに行いました。

ヘブライ人へ手紙にはこのように書いています。「11:7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしくみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。」

7章1節を見ると神様がノアに箱舟に入るよう命じます。ノアとノアの家族、そして、動物たちが入りました。16節を見ると、面白い表現があります。「主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた」となっています。神様が戸を閉じました。神様は御手を伸ばし、ノアの現実

に直接に関与してくださったのです。ただ見ているだけではない、ノアにもそうであったように、私たちの現実に関与し、働いておられる神様が私たちと共におられるのです。

ノアは箱舟の中で、この世の生き物がすべて死んでいくのを見ていました。すべてが崩れ去る、流れ沈む恐怖の時間を耐えなければなりませんでした。ただ神様の御言葉に頼り、耐えたのです。狭く、暗い箱舟の中で一年間を過ごしました。どこに向かうかもわからない、いつこの試練が終わるかも知らない、すべての将来、希望、命さえ、神様に委ねていたのです。神様への信頼がなくては耐えられない時間でした。

いよいよ雨がやみ、ノアとその家族、生き物たちが地上に降りました。家族以外のすべての人がいなくなってしまうました。恐ろしい現実です。地上に降りたノアが一番はじめにしたことは、主のために祭壇を築いたことです。すべての清い家畜と清い鳥のうちから取り、焼き尽くす献げ物として祭壇の上にささげました。持っているものをささげながら濡れた大地にひざまずき、神様に祈りをしたと思います。神様にすがりつくノアの切ない気持ちが伝わります。

この世の快樂が囲む環境の中でも、人々の非難と笑い声が聞こえる時間の中でも、すべてが崩れ去った恐怖の中でも、ノアはひたすら神様を見仰ぎ、神様の御言葉に従いました。すべてを神様に委ねて生きた人です。

神様はノアに言われます。「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。」それはなぜかとすると、人が心に思うことは、幼いときから悪いからでした。つまり、その恐ろしい裁きを受けても人間の悪は変わらない、人間を救うためには裁きではなく、憐れみ、愛によってなさることを決断なさったのです。人間が変わったのではなく、愛にゆえにご自身が変わってくださったのです。

今は裁きではなく、独り子イエスを送ってくださることによって、その愛を示して下さり、最後の裁きが来るまで私たちの罪に耐えてくださるのです。

ノアの時代と変わらない墮落と暴力の世界に私たちは住んでいます。人間の変わらない悪の世界です。しかし、ノアに箱舟を作るようにし、それを通して選ばれたものを守ってくださったように、イエス・キリストの血潮によって作られた教会を通して選ばれたものを呼び集めてくださるのです。海老名教会は主の箱舟、私たちの避けどころです。

そして、神様がすべてを滅ぼしたい、見たくないと思つ中에서도、この者だけは守ってあげる、と思いたくなる人でありたいと願います。神様の御手にすべてを委ね、耐え忍ぶことができる信仰でありたい、暗闇が我々を囲むこの世の世界、快樂と誘惑が多いこの世の中、力によって支配される世界、聖なるものへの畏れを失っている人々の中で、ノアのように、神様と共に歩む人でありたいと願います。この世が崩れ去る日でもそのような人は主の箱舟の中で守られるのです。